

高雄日本人学校中学部における交流活動の実践

前高雄日本人学校 教諭

群馬県吾妻郡東吾妻町立原町小学校 教諭 伊藤 義明

キーワード：現地理解教育，交流，台湾原住民，体験活動

1. はじめに

高雄日本人学校は、小・中学部それぞれ各学年の発達段階に応じて台湾の現地校との様々な交流活動を行っている。中学部では、毎年生徒の大多数が台湾原住民（ブヌン族）である桃源國中と交流を行っている。また、中学部は修学旅行（2・3年生はマレーシア、1年生は校外学習）と野外活動（2泊3日キャンプ）を隔年で実施しており、平成21年度の野外活動において実施した桃源國中との交流会の様子を中心に紹介したいと思う。

2. 野外活動について

(1) 目的

① 桃源國中中学校との交流を通して

- ・原住民の文化を知り体験することで、その違いから自らの文化について学ぶ。
- ・体験活動や文化交流を通して、新たな視野を広げる。
- ・現地校の友人づくりを通し、今までの中国語学習の成果を生かす。

② 原住民の伝統文化体験を通して

- ・講師のお話を聞き、ブヌン族の生活や文化の違いを理解する。
- ・実際に作品をつくることで、より深く体験から学ぶ。

③ 自然とのふれあいをを通して

- ・教室では学べないことを、自然の中で実物を見ながら学習をする。
- ・台湾の植物や生き物、地形・地質の特徴を知る。
- ・ハイキングを体験することで自らの体力を試し、また、苦勞して登った後の風景の美しさを体験し、山登りの真意に触れる。

④ 3日間のキャンプ生活を通して

- ・縦割りのグループ活動から各自の役割に自覚と責任を持つ。
- ・寝食を共にすることで、学年を越えた友情を育む。
- ・自分たちで考え、実行できる中学部集団をつくる。

※野外活動テーマ（実行委員会で決定）

「学べ！文化 笑え！友と 作れ！思い出 in野活2009」

(2) 日 時 平成21年6月17日（水）～19日（金）

(3) 場 所 青山温泉渡假村 高雄縣 六龜郷 新發村

(4) 参加者 ・中学部全生徒（1年生15名，2年生10名，3年生16名 計41名）
・引率教員 校長，派遣教諭5名，常勤講師（台湾人）1名 計7名

(5) 日 程

時刻	1日目（6月17日）	2日目（6月18日）	3日目（6月19日）
6：00		起床	起床
6：30		朝の集い	朝の集い
7：00		食事準備	荷物の整理
		朝食	朝食
8：00	学校集合・出発式	係りミーティング	テント撤収
8：10	学校出発	交流会準備	レクリエーション
9：00	青山温泉着 入村式・テント設営	桃源國中が到着 オープニングセレモニー 文化交流会①	退村式 青山温泉発
10：00	係り打ち合わせ	昼食作り「台湾と日本の食事を 食べ比べよう」 昼食	美濃窯 着 美濃焼 体験
11：00	ハイキング 「茶畑コース」	文化交流会②	美濃窯 発
12：00	昼食「弁当」	レクリエーション交流 エンディングセレモニー 桃源國中が出発 キャンプファイヤー準備	美濃原郷縁文化村着 昼食 自由見学 美濃原郷縁文化村発
13：00		食事準備	学校到着・閉会式 下校
14：00	ハイキング帰着	夕食	
15：00	レクチャー 「ブヌン族のお話」	SPA・シャワー 準備 キャンプファイヤー ※雨天のため、屋根の下で実施	
16：00			
17：00	食事準備		
18：00	夕食		
19：00	SPA・シャワーなど 準備		
20：00	レクチャー「星の観察会」 ※雨天のため「星の学習会」を 実施		
21：00	就寝準備	就寝準備	
22：00	消灯	消灯	

3. 桃源國中との交流会の取り組み

桃源國中は、高雄市からバスで3時間ほどの台湾南部の山間地に位置している。平成19年、野外活動の一環として桃源國中を訪問し交流会を実施したが、平成20年に予定されていた交流会では、台風による道路の分断で訪問することができず、中止となってしまった。復旧がなかなか進まない上、海外であり安全面を考えると、リスクが大きすぎて21年度の交流会の実施も困難ではないかと危惧された。下見で桃源國中を訪問したり、電話でやりとりをしたりするなど、交流会について桃源國中と検討を繰り返した。

桃源國中が高雄市とのほぼ中間に位置する日本人学校の宿泊地まで訪れてもらえることになり、キャンプ場で交流会を実施する運びとなった。

(1) 交流会オープニングセレモニー

司会進行は実行委員会生徒、通訳は常勤講師（台湾人）が行った。式次第は、下記の通りである。

- ① 開式の言葉（実行委員会生徒）
- ② 生徒代表の言葉（実行委員会生徒）
- ③ 歓迎の和太鼓（生徒有志） ※詳細は後述
- ④ 桃源國中校長先生あいさつ
- ⑤ 終わりの言葉（実行委員会生徒）

(2) 歓迎の和太鼓

高雄日本人学校では、生活科や音楽、総合的な学習などにおいて小1～中3まで系統的に和太鼓の活動を位置づけ、実施している。各学年とも交流会活動に披露することが多く、この交流会においても中学部有志生徒10名が3曲（祈り、勇駒、飛跳〔とんばね〕）の演奏を行った。練習は昼休みを活用し、3週間ほど練習を行った。

(3) 文化交流会①（午前の部）

日本文化を桃源國中の生徒に紹介する活動として企画した。実行委員会の生徒に、約30分で日本文化を紹介できる活動を5つ考えさせた後、全生徒にアンケートを取りグループ分けを行った。グループは以下の5つである。後日、桃源國中にメールで連絡をし、グループ分けのアンケートを生徒に実施してもらった。当日は、キャンプ場に5カ所の活動場所を設定し、桃源國中の生徒一人一人に1時間で2種類の活動を体験してもらった。通訳は、生徒達ができる限り自分たちの力で行った。



〈和太鼓グループ〉

- ① 和太鼓グループ・・・和太鼓の演奏を披露し、たたき方を教えて簡単な演奏を楽しむ。
- ② 折り紙グループ・・・折り紙の作品を紹介し、折り方を教えて一緒に作品を作る。
- ③ けん玉グループ・・・けん玉の技を紹介し、一緒に楽しむ。
- ④ 羽根つきグループ・・・羽根つきの遊び方を教え、一緒にゲームを楽しむ。
- ⑤ お手玉・浴衣着付けグループ・・・浴衣を着てもらい、お手玉遊びを楽しむ。

(4) 昼食づくり「台湾と日本の食事を食べ比べよう」

桃源國中と日本人学校とがそれぞれ昼食を作り、お互いの料理を試食した。桃源國中はブヌン族の伝統料理を作り、日本人学校は事前に食事係が中心となって計画や準備をして「親子丼」と「豚汁」を作った。

(5) 文化交流会②（午後の部）

桃源國中の生徒からブヌン族の文化を紹介する活動として企画した。食事や伝統工芸、歌など30分程度で体験できる活動を5つ準備してもらった。グループは以下の5つである。文化交流会①と同様に、キャンプ場に5カ所の活動場所を設定し、本校生徒一人一人に1時間で2種類の体験をさせてもらった。また、この体験をもとにして7月に行われた「学習発表会」で発表を行った。

- ① 伝統料理グループ・・・台湾南部の特産物の愛玉作りを体験し、試食する。
- ② 刺繍グループ・・・ブヌン族の伝統刺繍の体験を行う。
- ③ 流木工作グループ・・・流木を使ったブヌン族の飾りを製作する。
- ④ 伝統歌舞グループ・・・ブヌン族の歌と踊りを教えてもらう。
- ⑤ 服飾グループ・・・ブヌン族の民族衣装を体験する。



〈ブヌン族の民族衣装体験〉

(6) 交流会エンディングセレモニー

司会進行は実行委員会生徒、通訳は常勤講師（台湾人）が行った。

式次第は、下記の通りである。また、エンディングセレモニーの前に両校とも手作りの名刺を作成しておき、交換をしながら交流を深めた。

- ① 開式の言葉（実行委員会生徒）
- ② 桃源國中代表生徒あいさつ
- ③ 桃源國中の歌・踊り
- ④ 日本人学校校長あいさつ
- ⑤ 終わりの言葉（実行委員会生徒）

4. 生徒の感想

① 私は、午前の文化交流会で日本の伝統文化である和太鼓の打ち方を教えました。教えるのは、とても難しくて時間もあっという間に過ぎていきました。しかし、一生懸命に学ぼうとする桃源國中の方々を見て、すごく感動しました。

② 私は、午後の文化交流会で「飾り作り」を教えてもらいました。桃源國中の方々は、本当に親切で、最後まで丁寧に教えてくれたので、僕はとてもうれしい気持ちになりました。

5. 成果と課題

① 成果

- ・オープニングに和太鼓を入れたことにより、日本人学校らしい歓迎ムードをつくることができ、交流会の雰囲気が高めることができた。
- ・文化交流会①の和太鼓グループでは、桃源國中の生徒にも発表してもらうなど、教えたことへの充実感を味わうことができた。他のグループでも桃源國中の生徒に大変喜んでもらい、自らも充実感を味わえた。
- ・午後の交流会では、民族衣装を着させてもらったり、一緒に歌や踊りに取り組んだり、文化の交流はもちろんのこと、言葉の壁を超えて両校のきずなをさらに深めることができた。
- ・食事作りでは、本校の作った親子丼を大変喜んでくれるなど、日本の食文化を伝えることができた。

② 課題

- ・文化交流会①は、桃源國中の生徒を前半・後半の30分ずつに分けてもらって行ったが、30分での交流は時間的に短かったため、事前に計画していたことが全てできないグループもあった。1時間単位で1つの活動をじっくりと取り組んでも良かった。
- ・食事作りでは、異文化体験の良い機会であったが、口に合わない生徒もおり、申し訳ない面もあった。一緒に食事を作っても良かったかと思う。